

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

夏秋ピーマン部会のAD巡回を実施



5月22日、J A四万十夏秋ピーマン部会においてピーマン部長、営農アドバイザー、営農指導員及び普及員による巡回を実施しました。今回は新規に栽培を始める8戸の露地・雨よけ農家を対象としました。

5月上～中旬に定植しており、一部露地圃場で台風による葉の破れがあったものの概ね順調に生育していました。

普及所は、これからも営農アドバイザー巡回と現地検討会をそれぞれ2カ月に1回ずつ行いながら、収量・品質の向上に役立つ情報を提供していきます。

ミョウガ部会の目慣らし会を実施



6月4日、J A四万十ミョウガ部会において目慣らし会を実施しました。当日は生産者と調整作業等を手伝う方々約70名が集まり、見本のトレイを熱心に見ていました。

普及所からは土壌病害対策について参加者に説明しました。自分のは場であっても履物を替えるなど、被害の蔓延を防ぐよう注意してほしいと伝えました。現在出荷最盛期ですので最後まで収穫できるよう支援していきます。

第1回集落営農塾を開催



6月4日、普及所と営農協議会企画・担い手部会の主催で第1回集落営農塾を開催し、13組織16人の参加がありました。管内には現在集落営農5法人があり、営農継続のための新たな担い手として、集落営農の法人への関心が高まっています。

今回は、普及所から、任意組織と法人との違いや、管内法人の体制・法人設立にあたり活用した補助事業・制度等を説明し、研修会（平成27年度農業経営塾、他）の情報提供を行いました。

次回は9月開催の予定です。

環境制御・環境測定装置説明会を開催



6月8日、J A 四万十新施設園芸システム研究会および装置導入を希望する生産者、計14人が参加して、環境制御・環境測定装置説明会を開催しました。参加者は6社それぞれのプレゼンに、熱心に耳を傾けていました。説明会后、普及所が生産者に聞き取りを行ったところ、「昨年度の実証ほの結果をみて、導入しようと決めた」、「今日の説明だけでは、どの装置が適しているか決められないので、個別に相談したい」等、率直な意見がありました。

今後、普及所は研究会を核として、環境制御、測定機器の導入および活用方法について支援を行います。

イチゴ部会の出荷反省会を開催



6月13日、J A 高知はた大正支所イチゴ部会では、27園芸年度の出荷終了に当たり、出荷反省会を行いました。J A 及び園芸連より27園芸年度の出荷実績の報告があった後、活発に意見交換が行われました。普及所からはこれからの育苗段階で最も問題となる炭そ病の防除として定期的な薬剤散布の徹底を呼びかけました。

今後は、新たなI P M技術の導入や栽培管理の改善を進めていき、イチゴ産地としての維持活性化を図っていきます。

J A 四万十厳選‘にこまる’の現地検討会を開催



6月17日、生産者のほ場でJA四万十厳選‘にこまる’の品質向上に向け現地検討会を開催し、生産者9名が参加しました。

普及所が溝切り、調整肥の効果を説明した後、ほ場の固さや溝切り方法を指導し、生産者に溝切りを体験してもらいました。生産者からは「意外と簡単だ」「機械は農協で貸してくれるのか？」などの声が聞かれました。

普及所は、今後も全国ブランド化に向けJA四万十厳選‘にこまる’の品質向上を支援していきます。